

区の補助計画等のまとめ	<p>1 自然環境・景観分野の政策課題</p> <p>(1)【自然環境】「目黒区生物多様性地域戦略」及び「みどりの基本計画」に基づき、自然環境の保全とみどりの創出を推進し、エコロジカルネットワークの形成を推進していく必要がある。</p> <p>(2)【みどり】「みどりの実態調査」の結果、前回調査からの11年間でみどりの状況は大きく変化している。特に区の緑被全体における民有地が占める割合が約60%から約54%に減少しており、更なるみどりの保全対策に取り組む必要がある。</p> <p>(3)【みどり】公園、緑道、街路樹等約2,300本の桜の樹勢の回復や植替えなど保全・更新への取組が必要である。</p> <p>(4)【水辺の環境】目黒川の悪臭や白濁化については現在でも区民より多くの改善要望を受けており、水質改善が喫緊の課題となっている。</p> <p>(5)【景観】良好な都市景観の形成に向けて、公共施設の良好な景観形成や地域の特性に応じた規制、誘導が求められている。</p>	<p>2 課題解決に向けた施策の方向性</p> <p>【5年後】</p> <p>(1)【自然環境】一人ひとりが生物多様性に配慮した取組を行えるよう、継続的にいきものの観察会等区民参加型の生物調査を実施し、生物多様性の大切さや、都市におけるみどりの役割について普及啓発を図る。</p> <p>(2)【みどり】「みどりの条例」に基づき緑化協議を進め、公共施設及び民間建築物の敷地や建築物の緑化を推進するとともに、既存緑地の保全を図る。</p> <p>(3)【みどり】住民参加により地域ごとの「桜再生実行計画」を作成するとともに、桜保全活動を推進し桜の保全を進める。</p> <p>(4)【水辺の環境】目黒川の水質改善の充実、都の「経営計画」に基づく合流式下水道の早期改善を都へ要望していく。</p> <p>(5)【景観】景観形成上、きめ細かい規制誘導が必要な地域については、住民参加により地域街づくり条例等を活用した自主的なルールや地区計画を策定する。</p> <p>【10年後】</p> <p>(1)【自然環境】区民、事業者、学校、行政等が協働でみどりの保全や創出、河川水質改善に取り組み、エコロジカルネットワークの形成を図る。区内の自然環境やいきものの生息状況等の情報の共有化を推進する。</p> <p>(2)【みどり】住民参加による桜保全活動を推進し桜の保全を進めるとともに、地域コミュニティの形成やみどりに対する意識の啓発を図る。</p> <p>(3)【景観】地域特性に応じた魅力ある都市景観が区民、事業者、行政の連携・協力により創り出されている。</p>
-------------	---	---



審議会まとめ	<p>3 審議会での主な意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 目黒川の合流式下水道の早期改善の都への要望について、5年後には早期改善が図られるようにしていただきたい。10年後には水質改善が果たされていることを方向性に掲げていくべきではないか。 ○ 区の目玉は目黒川の桜である。ただし、下水は隣接区、区横断的な施策が必要だが、この点、都との連携と区、区民の熱い思いを反映させることが必要ではないか。沿岸住民が納得できる施策を皆で考えていくべきである。 ○ 遺産相続により分割された土地に新築の家が建つが緑がない。建築許可を下す時に協力要請をしなくては、緑化推進にならないのではないか。 ○ 屋上緑化や壁面緑化は、維持管理やコストの面から進んでいるとは言えず、これらに代わる施策を検討すべきではないか。 ○ 野鳥の種類を増やすといった生物多様性はよいが、鳥が増えればフンの問題などが発生することもある。共生するための視点と両方が必要ではないか。 	<p>4 自然環境・景観分野の概ね20年後の区の将来像やあるべき姿【キーワード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 目黒区の特性を活かした魅力ある都市景観の創出 ○ 優れた景観資源の保全及び活用 ○ 街のみどりの保全・創出 ○ 生物多様性の確保による自然と共生するまちづくりの推進 ○ 河川の水質浄化による親しみある水辺の整備
--------	---	---